

インフラを守る者どう育てる 複業での展開事例を報告

建設トップランナー倶楽部



事例報告する工藤一博
工藤建設社長

建設トップランナーフォーラムが8日、東京・田町の建築会館ホールで「インフラの町医者者をどう育てるか」をテーマに開催された。

フォーラムでは米田 雅子建設トップランナー倶楽部代表幹事がフ

オリラムの趣旨を説明

し、地域建設業を守るべき役割として、地域

防炎の最前線、老朽化する社会インフラを守る、複業による産業と雇用を創出することと位置付け、インフラの町医者者をどう育てるかを今年度のテーマとして

掲げた。

第1部では「エコハ

新」と題して工藤建設の工藤一博社長が自社の自然エネルギー活用事業とドイツのパッシブハウスへの取り組みを交えて報告した。同社は元々が公共土木事業が中心の会社で小型風力発電、太陽光発電、太陽熱利用、地熱利用などにも取り組んでいた。

3年前に訪れたドイツで分厚い壁のパッシブハウスと出合い、躯体の断熱性を高めることで人の体温で温まるくらいの高性能住宅が実現できることを知り、岩手県奥州市にモデルハウスを建設、従来の住宅の10分の1程度の暖房費で冬でも暖かい住宅を実現した。ただ、パッシブハウスの良さを伝えるには体感してもらわなければならない、普及や施工体制の課題を示した。

「在宅支援ハウスと介護事業への展開」と

題して瀬戸良幸瀬戸建設社長が事例報告した。

ビル建設や住宅建設を中心とした事業形態から意識改革に取り組み、介護事業との組み合わせで様々な土地オーナー向けの提案を行い、今では11カ所の介護福祉施設などを運営するようになった。医院、ヘルパーステーション、デイサービスセンター、介護付き有料老人ホームなどを組み合わせていくことで収益事業の可能性を示した。